

平成29年度 清水特別支援学校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価の目標に対する成果や課題の分析は適切か。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・その他(学校運営全般に関するご意見など)

(御意見を伺った方)

学識経験者、島寺地区自治会長、あさひ保育所長、光道園ライトホープセンター施設長、同窓会会長、PTA会長

(御意見)

○教育課程・学習指導・研修

- ・教職員評価でC評価された方の分析が必要ではないか。なぜCと自己評価し、どうするとよかったのかを個別面談等の機会を利用して、導き出すことが大切。人数が少ない学校だからこそ一人の意見を大事にするとよい。

○生徒指導

- ・教育課程についてと同じく、教職員や保護者のC評価の分析を大切にしてほしい。保護者のC評価は、学校の取り組みと保護者のニーズが合致していなかったのではないか。学校はケガなど安全面を重視している一方で保護者は肥満などに問題意識があるようだ。
- ・教員間の情報共有シートの活用は、ヒヤリハットや事故の再発防止に役立つ方法であり今後ともぜひ継続してほしい。
- ・体調不良などの訴えができない児童生徒が多いので、養護教員との連携は重要。

○進路指導

- ・相談支援専門員にとって、学校はともすると敷居が高い。学校でケース会など開催し、出向く機会を作ってもらえるのはありがたい。家庭、福祉、学校それぞれの場での実態が共通理解でき、課題を見出しやすい。
- ・卒業後の進路は、保護者にとっては大きな不安の一つ。地域の社会資源の情報等のマネジメントができる相談支援専門員との連携、協力は大切である。

○支援

- ・地区の保育所との合同事例研究会を毎年開催していただいたり定期的に訪問していただいたりして、保育所としても良い学びの場となっている。
- ・学校見学会の折に放課後デイサービスの職員も参観をさせてもらい、先生方からアドバイスや情報をいただくことができた。おかげで、デイを利用する子ども達の支援計画がより具体的になり実践につながって落ち着いてのびのびと過ごすことができている。

○地域との交流(交流及び共同学習)

- ・交流及び共同学習の取組について本校保護者や相手校保護者からの高い理解が得られている。出前授業の実践、遠隔の利用等なども理解を深める要因になっているのではないかとと思われる。
- ・地域との交流はPTAが主導して役割を果たすべき側面もあるかと思うが、何をしたらよいのか迷うことも多い。
- ・地域で行われているイベント等に積極的に参加していくことが大事。お住まいの地域の名人などをPTAから紹介していただくのもよい。
- ・交流活動の評価については、児童生徒と教員それぞれでの成果と課題を具体的に示せると良い。
- ・学校間交流では、先生方が支援の方法を工夫することで、子ども達が自然体で交流できている。

○運営(多忙化解消)(人権)

- ・校務2部制のことなど、個々にやらされている感が強いのではないか。受身的でなく、自分で仕事を考えて進めていくようになるとよい。出退勤調査のことなども自分の働き方を自分でプロデュースするといった意味合いをもって取り組むことが必要ではないか。
- ・教員評価の中で、児童生徒への言動を自分は意識できたが、話し合ったり注意を促したりすることができなかったという意見がある。学部会で話し合うのは難しそうだ。それでも以前よりは人の領域を犯さないという考え方は薄れてはきているのではないか。
- ・福祉施設のほうでも人権の尊重や個性の尊重など、人権に配慮した支援を心がけているが、なかなか難しいものがある。不適切な言動が見られたときに指摘し合える風通しの良い職場環境を作るための具体的な取組が課題である。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

この評価書に示されている内容や指摘を受けた課題を踏まえながら、各校務部・学部で検討し、次年度のスクールプランの策定と実践に取り組んでいく。また、一定の評価を得ている項目や内容については、その継続・強化を行うよう努める。